

## 発掘調査の概要

### 横大路南側溝の調査(飛鳥藤原第149-5次)

横大路は難波から藤原京、さらに東国へとつながる古代の東西幹線道路です。横大路は現代の道路と重なる部分が多いため、その発掘事例はまだ数例しかありません。今回の調査地は藤原京右京一条五坊にあたり、近鉄大和八木駅のすぐ南です。大和信用金庫八木支店の移転工事に伴うもので、北側に東西12m×南北9m、その南に東西4.5m×南北26mの調査区を設定しました。約70m西の奈良地方務局建設の調査でも横大路南側溝を確認しており、その続きが期待されました。

調査を進めていくと、調査区北側で横大路南側溝を約10m分確認しました。ここから北が横大路ですが、後世の削平が激しいため、路面の様子はわかりません。調査でわかった重要な点は、横大路南側溝が2条存在することです。南側の溝は幅3m、深さ40cmで、北側の溝が幅1.5m、深さ20cmでした。遺構の重複関係と出土遺物の状況から、南側の溝が藤原宮期にあたり、北側の溝がそれよりも新しい藤原宮期末～奈良時代と判断されます。南側の溝からは、木片や土器片などが多数出土しており、墨書土器や硯、馬の歯も見つかりました。

南側溝のすぐ南には2条の細い溝がありますが、その南方には空閑地が広がっており、調査区南端で東西3間・南北2間以上の建物を検出しました。

今回の調査では、横大路南側溝を付け替えた可能性がある、という非常に大きな発見があり、坪内の状況についても手がかりが得られました。今後の調査・研究により、横大路とその周辺のさらなる解明が期待されます。

(都城発掘調査部 番 光)



横大路南側溝(西から)